

医療現場におけるUDI利活用推進事業の目的と概要

(1) 事業の目的

医療機器・医療材料等をバーコードなどにより識別するための仕組み（UDIシステム）の活用により、医療事故の防止や流通の効率化等をもつたる取り組みについて、医療現場での利活用実態を明らかにするとともに、システムの導入による改善効果や導入に向けた課題を把握することにより、医療現場におけるUDIシステムの普及を推進する

(2) 事業の概要

医療機関におけるUDIシステムの利活用実態や導入への課題等を把握するため、以下の2つの調査を実施した。

- ・モデル病院調査：トレーサビリティの有効性、医療事務の効率化、GS1標準バーコード活用における課題にかかる検証を、2施設で実施
- ・アンケート調査：UDI、GS1の認知度、UDIシステムの導入意欲や阻害要因等の質問を、5,273医療機関（100床以上の全ての病院）を対象に実施(Web)、回答率23.3%

<バーコードを活用した物流・医療安全確保>



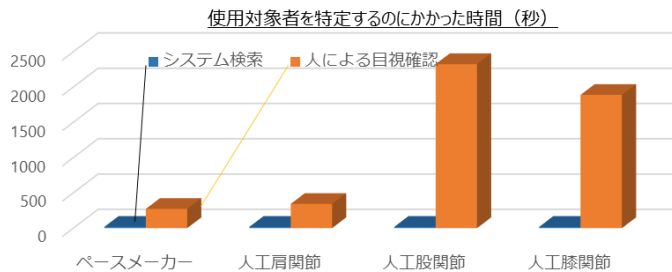
モデル病院調査の概要と結果

- 協力施設：市立伊丹病院、東海大学医学部附属病院
- 検証内容：(1)トレーサビリティの有効性、(2)不具合品（期限切れ製品）の発見に係る優位性、(3)医療事務の効率化、(4)医療材料費の把握、(5)バーコード貼付率の実情把握

〔結果概要〕

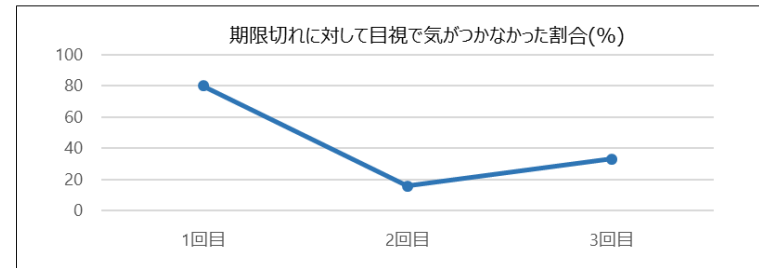
〔検証1 トレーサビリティの有効性〕

- ・医療材料における検証では、システム約18秒/人に対し、目視約1分/人であり、患者特定に要する時間の迅速化と正確性が確認された。



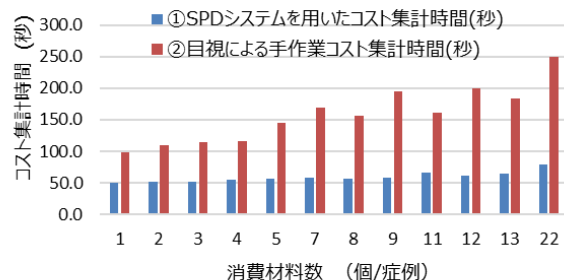
〔検証2 不具合品の発見に係る優位性〕

- ・医薬品、医療材料ともに、システムによる発見率は100%であるのに対し、目視では医薬品0%、医療材料70%であり、その優位性が確認された。



〔検証3 医療事務の効率化〕

- ・バーコードによる集計が紙帳票集計に比べ約50%の時間で行うことができ、コスト集計時間の迅速化と正確性を確認できた。



〔検証4 医療材料費の把握〕

- ・対象とした15症例において、医療材料総額が低い手術を除けば、GS1標準バーコードによるコスト集計であっても全使用医療材料費の90%程度は捕捉可能であった。(東海大病院での結果)

〔検証5 バーコード貼付率の実情把握〕

- ・医療材料では、3,561品目中、購入単位（外箱表示に相当）で77.9%、払出単位（中箱表示相当）で73.3%、使用単位（個装表示に相当）で46.1%であった。(市立伊丹病院での結果)

アンケート調査の概要と結果

- 調査方法：施設長、医療安全管理責任者を対象としたアンケート調査をWeb形式で実施
(調査期間：平成30年12月21日～平成31年1月31日)
- 設問内容：(1)UDI、GS1の認知度、(2)医療機関内のバーコード利用状況、(3)UDIを活用したユースケース毎の導入実態、今後の導入意欲、(4)導入に向けた課題 ほか

〔結果概要〕

〔設問1 UDIやGS1のことを知っていますか〕

- ・約50%の回答者が「知っている」あるいは「聞いたことがある」と回答した。
- ・病院の形態別では、高度急性期、急性期病院での認知度が比較的高いが、「双方とも知らない」と回答した割合も25%程度見られた。

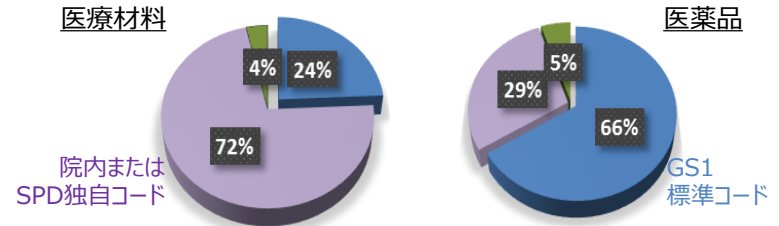
図5-3 設問「GS1やUDIを知っていますか」に対する回答内容

病院数	知っている	聞いたことがある	UDIのみ知っている	GS1のみ知っている	双方とも知らない
全体 1,227	12.2	36.8	2.4	24.0	24.5
高度急性期病院 94	34.0	31.9	3.2	19.1	11.7
急性期病院 550	11.1	38.7	2.5	28.4	19.3
回復期病院 112	7.1	38.4	0.0	27.7	26.8
慢性期病院 263	10.6	39.9	2.3	14.4	32.7
その他 208	10.1	29.3	2.9	25.0	32.7

〔設問2 貴院でバーコードを利用しているシステムはございますか〕

- ・多くの施設でバーコードを用いたシステムの導入が図られているが、標準化されたバーコードの利用は、医薬品において利用されている実態が確認された。

図5-5,6 用いているバーコード

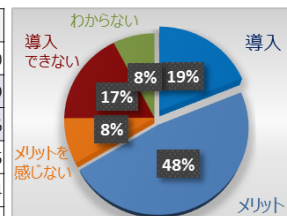


〔設問3 下記の活用例について、貴院での活用状況と今後の予定、希望の有無に関してご回答ください〕

- ・医療機関の導入意欲は高いものの、多くの医療機関では導入までに至っていない実態が確認された。

図5-8 回収対応へのバーコード利用

	回答数	%
全体	1,228	100.0
1 既に導入している、又は導入を前向きに検討中である	232	18.9
2 導入予定はないが、メリットは大きいと感じる	584	47.6
3 導入予定はなく、あまりメリットも感じない	104	8.5
4 電子カルテ・病院情報システムがないので導入できない	214	17.4
5 わからない	94	7.7



〔設問6 今後、GS1バーコードを活用するシステムを貴院に導入するには何が必要だと思われますか〕

- ・施設規模によらず、導入の阻害要因として「導入コストが大きい」(59%)ことが理由に挙げられており、財政的インセンティブや関係者の理解の促進が必要であることが確認された。

図5-12 積極的導入のために何が必要か

	回答数	%
全体	1,227	
1 財政的インセンティブ	913	74.4
2 医療機関の経営層の理解	522	42.5
3 現場の理解	441	35.9
4 その他	85	6.9

医療現場におけるUDI利活用推進事業 まとめ

まとめ （普及に向けて）

- 今般の調査対象施設におけるUDIの認知度は約50%であったものの、システム導入の実態は約20%に止まっていた
- 医療安全に関しては、期限切れ製品の捕捉が確実になるなどその有用性が示される結果となり、アンケート調査に回答した施設の約50%がメリットを感じるとの回答であった
- モデル病院調査の結果から、医師等をはじめとする医療従事者の業務効率化が図られることにより医療安全にも有効と考えられるものの、アンケート調査の結果からは、UDIシステム普及のためには、一定の導入コストが必要であることや経営者、医療現場の理解の促進を図ることが課題であるとされた
- これらの課題の解決に向けて、経営者、医療現場を含む医療関係者のUDIシステムに関する理解の促進を図るとともに、行政、医療機関等の取り組みを通じたUDIシステムの普及促進に向けた取り組みを継続していくことが求められる